

査読とは？

浅井芝樹
(山階鳥類研究所)

論文を作る人は

- 著者
- 編集者
- 査読者



査読をするということは

- 評価（業績）に含まれない
- 他人の評価（業績）のために自分の時間を使う
 - よく知らない分野だったりすると
 - 改めて勉強したり、論文を読んだり



査読はめんどくさい

- めんどくさいのにいちいちコメントしたのはなぜだろう？
=よい論文になってほしい



コメントの量が...

- コメントが少ない
= 査読がめんどくさいと思う人
- コメントが多い
= 親切な人



それでもコメントされるのはいや

- コメント = よくないところ、失敗の指摘
- コメントはよくない部分の羅列だから



|| 著者にとっては

だいたい腹が立つ

コメントの多い査読者は親切な人と思いだしてほしい...

査読者コメントに異議あり 1

●査読者のコメント

■この論理はおかしいとの指摘

でも...

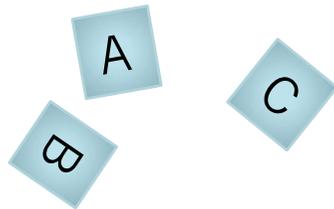
★原稿に書いてあることとコメントとは本質的には変わらないのでは...?



● 論理展開がうまくなかった



● やっぱり書き直そう



A ゆえに B ゆえに C

査読者コメントに異議あり 2



● 査読者のコメント

■ 必要な情報が書かれていないとの指摘
でも...

★ 全部読めば必ず情報があるのに...



- 十分に強調して書かなかった
- 書く順番が間違っていた



- やっぱり書き直そう

査読者コメントに異議あり3



- 査読者のコメント

- 著者の主張は間違っているとの指摘でも...

- ★ 誤解としか思えない...



- 誤解されるような書き方であった



- やっぱり書き直そう

査読コメントには1対1対応

- 何ページ何行目のコメント
 - 対応の仕方「査読コメントにしたがって・・・しました」
 - 改訂稿の何ページ何行目にあたるのか



1対1対応の反論でもよい



- 何ページ何行目のコメント

- 反論「査読コメントは・・・（間違い）であるので・・・変更しませんでした」

1. 査読者の論理は間違っている
2. 原稿中にちゃんと書いてある
3. 誤解である

など

- 改訂稿の何ページ何行目にあたるのか

最悪の対応

- 「査読者のコメントにしたがって対応しました」と書いていながら、対応していない部分がある。



- **反論した方がずっとまし**

とにかくコメントに対して何らかの対応（議論）はしなくてはならない



よくある失敗「はじめに」

- 何を対象にするのかわからない

「.....のデータをとったから示す」はダメ

浅井個人的にはいいような気もするが.....



1. 学術的に問題となっているのは何か（背景）
2. どうやったら解決できるのか
3. どんな手段（種、調査地、方法）でやるとうまくいくのか

よくある失敗「方法」



- 方法ではとにかく書いている量が少なすぎる人が多い（誰でもわかるだろうと考えるのは間違い）
- （査読者 = 読者は）結果で示されたデータがどのようにして得られたのか全くわからない（追試できない）
- **方法は馬鹿丁寧に書いた方がいい**

査読者にここまで丁寧に書かなくてもいいと言われてもかまわない



削除すればいいだけ

よくある失敗「結果」



- 原稿中で同じであるはずの値が異なる

1. 本文中の場所によって値が異なる
2. 単純な足し算などの結果が異なる
3. 本文と表とで値が異なる



よくあっていいわけではないのだが……
実際のところよくある

- 不注意 ← 絶対やってはいけない

査読者にきわめて**印象悪い**

- 分析ミス ← かなり深刻

分析し直すと**結論が変わるかも**

よくある失敗「考察」

- 分析結果から言える範囲を逸脱している
 - 調査した者には直感的にわかることがあるもの
 - ついつい言いたくなる



- データと分析結果を**冷静に客観的**に見る
- 抑制の効いた堅い議論は査読者にとっては**受け入れやすい** (おもしろくないと思う人もまいる?)



論文掲載に至るには



- 査読コメントにともなう改訂作業を恐れず、まずは**投稿**
- 却下されてもひるまず書き直して、あるいは別の雑誌へ、とにかく**投稿**
- ◆ 編集側から見て
改善されない原稿は困りものですが、よい論文にしようと改善し、繰り返し送ってくる原稿は、何とかしてあげたいなあ、と思うこともあります。